

視 察 報 告 書

報告者氏名：井口一彦

委員会名：教育福祉常任委員会所管事務調査（他都市）

期 間：平成29年10月18日（水）

視察都市等及び視察項目：東京都港区 幼・小中一貫教育について

所 感 等：

港区教育委員会では、これまでの6・3制の義務教育の枠にとらわれることなく、地域とともに子どもたちのよりよい成長を目指して平成26年10月より、今後10年間の港区の教育における方向性を示した港区教育ビジョンを策定し、その下位計画にあたる港区学校教育推進計画に基づいて平成27年4月から教育政策を進めています。区立幼稚園だけでなく、私立幼稚園や公私立の保育所も含めた幼児期の教育から、小・中学校の義務教育までの12年間を一貫したものとしてとらえ直し、港区ならではの特色ある教育を推進しています。港区教育委員会では「その一つに幼小中一貫教育が位置づけられ幼児期の教育（3年間）から、小中学校の義務教育（9年間）幼小中一貫の目的について（幼児・児童・生徒） 課題に応じた指導継続による確かな学力の定着 異年齢交流による思いやり等の気持ちを養い豊かな心を育む。保幼・小中連携により、計画的・継続的に体育・健康教育や食育等に取り組み、体力の向上及び健やかな体の育成を図るなどとしております。また、この一貫教育は地域の活性化（地域の諸団体、外部機関の行事に積極的に参加、交流を通して）にも貢献しております。また各施設の立地場所（距離）や教育活動が異なっているため小学校入学前教育カリキュラムとMINATOカリキュラムをベースに柔軟な発想を子ども、教員同士の交流により目指しているそうです。

成長段階の教育方針及び環境こそ、未来の日本人形成のために重要な事項であると認識しており、本市の発展に寄与できることを再認識しました。

期 間：平成29年10月19日(木)

視察都市等及び視察項目：愛媛県 学力向上推進3か年計画について

所 感 等：

本年国体の開催地である愛媛県では、教育振興に関する大綱(平成27年度～30年度)の中で個性の大切をメインに、確かな学力・豊かな心・健やかな体をバランスよく育み、生きる力を身に付ける。実社会の中での自分の果たす役割や各自の責任を自覚することにより変化の激しい世界の中でたくましく挑戦する子ども達を育てることとしています。

また学力の向上については愛媛県(平成24～平成28年)の学力向上5か年計画により目標達成のための3つの力 組織力の強化(学力向上推進計画) 授業力の強化(読み物教材の作成) 省察力の向上(愛媛県独自の調査)を基に確かな学力(豊かな心)(健やかな体)により学校教育の質の向上を目指しております。

授業が変わることにより授業改善に繋るとの観点から愛媛県教育委員会が作成した学習シートが現在1519シートあります。主なものを下記に示します。

1(予算付きシート) 国語の読んで書く力を伸ばす学習シート 算数の応用力を伸ばす学習シート 社会科自主学習シート(歴史的分野) 理科基礎力強化シート 英語応用力強化シート

2(ゼロ予算シート) 国語基礎シート 国語基礎シート(漢字・語句) 国語基礎シート(フォローアップ) 国語チャレンジテスト 国語ローマ字学習シート 国語漢字のうた 社会科基礎シート 社会科リーフレット(選挙) 算数・数学基礎シート(計算) 算数・数学基礎シート(フォローアップ) 算数・数学チャレンジテスト 理科基礎シート(基礎ドリル) 英語基礎シート(英単語・文法)等 これにより、読み書き、自分の意見を表現する能力、情報収集力、作文能力、会話力の向上を目指しています。

また愛媛県のイメージキャラクターみきゃんを素材にした、みきゃん通帳による読書意欲、読解力向上を目指す取り組みにより、休み時間を活用した読書も増えてきた等の事例もあり好評とのことでした。

ご説明いただいた内容、地域性を考慮しながら横須賀市の学力向上施策に活用してまいりたいと思います。

期 間：平成29年10月20日（金）

視察都市等及び視察項目：

奈良市 幼児教育アドバイザーの育成プログラムの開発について

所 感 等：

奈良県といえば鹿のイメージがあります。奈良市では「ももいろいろジーカ」を子育て応援キャラクターにしております。五匹の家族構成でパパ、ママ、3匹の小鹿となっており子育て情報ブックをはじめ活用しております。

奈良市は平成27年3月に奈良市立こども園カリキュラム（バンビーノ・プラン）を策定し、子供、子育て支援新制度の時代に適う幼児教育の質の向上に取り組んでいます。策定中のカリキュラム案に基づき、モデル園が十数回の公開保育研究会を開催し、平行して各保育者は研修に事例を持ち寄り歴然としてのカリキュラムを検討することを繰り返し、平成27年より市立こども園、幼稚園・保育園の全園で円滑に導入されましたが、開始してみると新たな課題点も出てきました。

こうした課題への対処として幼児教育の推進体制を構築し直す必要にせまられました。そこで文部科学省委託事業に応募し推進体制構築の一環として幼児教育アドバイザーの計画的な育成と活用を目指すことになりました。（幼児教育アドバイザーとはカリキュラムを熟知し研修を通して実践や実践研究の統括ができる高度な専門性を有する保育者を指します）

本研究では体制構築の端緒として幼児教育アドバイザーの育成プログラムを開発しました。

全てのカリキュラムは用意周到な事前研修等により作成されますが、運用後の課題を克服する必要もあります。そのためには関係者との連携が重要となることをこの視察で実感しました。